

再評価結果(令和 8 年度事業継続箇所)

担当課： 道路局 国道・技術課

担当課長名： 西川 昌宏

事業名	一般国道155号 豊田南バイパス			事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：愛知県豊田市駒場町 至：愛知県豊田市逢妻町					延長	12.9km
事業概要							
一般国道155号豊田南バイパスは、愛知県豊田市駒場町から同市逢妻町に至る延長12.9kmのバイパスであり、豊田外環状道路の一部を構成し、現道155号の交通渋滞の緩和、交通安全の確保及び東名・新東名ICへのアクセスの確保を目的に計画された道路です。 豊田市は自動車産業の集積地となっており、豊田市中心部や周辺路線には、主要渋滞箇所や、死傷事故率の高い箇所が多数存在するなど多くの課題があり、本事業は、課題解決のために豊田南バイパスを整備することで、交通渋滞の緩和や交通事故の削減、物流効率化の支援などの効果を見込んでいます。							
S48年度事業化		S39 年度都市計画決定 (S47年度都市計画変更)		S50年度用地着手		S58年度工事着手	
全体事業費		約1,012億円		事業進捗率 (令和7年3月末時点)		約85% 供用済延長 9.2km	
計画交通量		45,600台／日					
費用対効果分析	B/C	EIRR	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体)	(事業全体)		326/2,922億円		3,458/7,787億円	
	2.6(2.6)	6.3%	(事業費：235/2,786億円)		走行時間短縮便益：3,135/7,158億円		
	4.2(3.9) [2%]	(6.3%)	維持管理費：84/187億円		走行経費減少便益：300/597億円		令和7年
	5.5(4.9) [1%]		更新費：6.5/19億円		交通事故減少便益：23/32億円		
感度分析	(残事業)	(残事業)	(事業全体)	(残事業)			
	10.6(12.6)	48.8%	交通量	B/C=2.3～2.9(±10%)	交通量	B/C=9.6～11.7(±10%)	
	13.7(15.0) [2%]	(133.7%)	事業費	B/C=2.6～2.6(±10%)	事業費	B/C=9.9～11.5(±10%)	
	15.3(16.3) [1%]		事業期間	B/C=2.5～2.9(±20%)	事業期間	B/C=10.1～11.2(±20%)	
事業の効果等							
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 ・現道等に当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線(高岡ふれあいバス等)が存在する。 ・中部国際空港(第一種空港)へのアクセス向上が見込まれる。							
②物流効率化の支援 ・名古屋港(国際拠点港湾)、衣浦港(重要港湾)へのアクセス向上が見込まれる。							
③都市の再生 ・区画整理(豊田土橋土地区画整理事業等)の沿道まちづくりとの連携あり。							
④国土・地域ネットワークの構築 ・一般広域道路(衣浦豊田道路)の一部として全区間が指定されている。							
⑤個性ある地域の形成 ・主要な観光地(香嵐溪等)へのアクセス向上が期待される。							
⑥安全で安心できるくらしの確保 ・厚生連豊田厚生病院およびトヨタ記念病院(三次医療施設)へのアクセス向上が見込まれる。							
⑦災害への備え ・既開通区間が第1次緊急輸送道路に位置づけられ、未開通区間も第1次緊急輸送道路(計画路線)に位置づけられる。 ・第1次緊急輸送道路(愛知県地域防災計画)である国道55号(現道)が通行止めになった場合の代替路線を形成する。							
⑧地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。							
⑨生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。							
⑩他のプロジェクトとの関係 ・関連する大規模道路(一般国道153号豊田北バイパス)と一体的に整備する必要がある。							

